［概要］

近世の城下町研究は，歴史地理学の視点においてさまざまな手段で研究がなされている．本稿では，計画的に建設された城下町である近世の松本城下町に焦点を当て，城下町絵図に描写された地物の表現方法を分析し，作成目的を検討するとともに，従来の近世松本城下町の都市像に複数の絵図の描写から考察を加えた．現存する松本の城下町絵図を時代区分によって 3 つに分類した．それにより，享保時代以降，土地利用を色で塗り分けて表現する絵図が増加したことが明らかになった．また，地物の表現内容から読み取れる作成目的を用いて城下町絵図を 4 つに分類し，現存する松本城下町絵図の多くは屋敷割図であることを明らかにした．城下町絵図の地物描写，時系列から都市像を検討した分析では，複数の絵図からも，松本城下町は近世的城下町の性格を有していることがみられた．時代区分グループでは作成された年代による描写される地物の特徴が検討でき，地物グループからはそれぞれの絵図の性格の違いから地域構成を検討できた．また，市史と合わせて検討することで，社会背景との関係を考察することで，従来の都市像との比較が可能となった．

キーワード：城下町絵図，松本，地物